

「農林水産資源の宝庫・愛媛の産業と地域づくり」

(公財)えひめ地域政策研究センター 臨時研究員 徳永 真菜美

平成24年3月2日(金)に愛媛大学南加記念ホールで当センターと愛媛大学農学部農山漁村地域マネジメント特別コースの共催によるトークサロン「農林水産資源の宝庫・愛媛の産業と地域づくり」を開催しましたので、その内容をご紹介します。

【講演・特別報告】 ※の方はパネルトークにも参加
 ㈱森のとむち農園(今治市) 森 智子
 「農業と地域づくり」

㈸昭和和産(八幡浜市) 宮本 英之介
 「一魚一会の水産業」

松山市農業指導センター 柴 竜己
 「魅力ある農産物の産地づくり」

㈱西条産業情報支援センター 池田 広美※
 「地域農産物の売り込み展開」

(特非)eワーク愛媛(新居浜市) 難波江 任※
 「若者自立と農業」

【パネルトーク】

テーマ「農林水産資源の宝庫・愛媛の産業と地域づくり」
 農林業経営・田村ファーム&フォレスト

(久万高原町) 田村 隆悟
 尾崎農園・野菜ソムリエ(愛南町) 尾崎 益善

愛媛県農林水産部 あぐりすくらぶ担当 山之内 泉
 コーディネーター…愛媛大学農学部教授 森賀 盾雄



トークサロンは、第一次産業に従事しながら地域の活動に人生をかけて取り組んでいる方々の、勢いある語り場となりました。それぞれの活動内容を変えながら、愛媛県の農林水産業からみる地域づくりを考えていきました。発表者は、豊かな自然に恵まれている県であるという有難さに気付くことを原点に出発し、地域の良さを再発見し活用していくことが農林水産業に関わる人の役目という高い意識を持って活動をしています。一方で、第一次産業で働く人のほとんどが高齢者であり、若い後継者は少ない現状があります。そこで、第一次産業だけでない多様なネットワークをつくり、若者が自立して食べていける生活体系を作ることが目指した地域づくりの観点が大き



真菜美

切です。そのためにどうしたらいいのかといった点について、参加者の意見も交えながら盛り上がったトークサロンとなりました。

まず、生産者の側から見ると、㈱森のともだち農園の森さんは、品質のいいものを作るということを基本に、ものを売るために愛着のある名前を付けたリ、情報発信をする等、様々な工夫をされていました。しかし、それでも農産物は売れないということがあります。そこで、生産者主体から消費者主体へと視点を切替える工夫をしているそうです。一方、消費者の側では、もつと値段は安いものを、品質が良いものをと、消費者によってそれぞれ声を持っており、ニーズに合ったものを見つけられていない場合もあります。そこで、生産者と消費者をつなぐために「戦略と継続」が不可欠となりますが、これについて㈱西条産業情報支援センターの池田さんは、SNSなどを活用して、消費者と生産者の声を行き来させているのとのことでした。県下では、山之内さんの所属する「あぐりすくらぶ



天があります。これは、その地域で食べ方の独自性を生んでいます。素材そのものだけでなく、商工業を通して、ひねりを加えることで、より人々に注目されます。愛媛で採れたものを愛媛に求めてもらって、愛媛で食べてもらうというところ。それは、分野を越えた連携を紡ぎ、地域活性

が行政機関や農業者、企業をつないでおり、情報交流の場の提供や人材育成サポート事業をしています。愛媛では多様なネットワークもでき始めていることが分かりました。連携しつつ戦略的に取り組むことにより、それぞれの生産者が単発で行うよりも、継続的に売っていくことができます。安定した仕事が確立できれば、若者やその親の「農業では食べていけない」というイメージを払拭できるのではないのでしょうか。



化や雇用にもつながっていきます。

現在では、農業は農業だけではやっていけない時代になりました。商工業と、さらに教育からも農業を見ていく必要があります。田村ファーム&フォレストの田村さんは、朝食を食べない人や、夕食を家族と一緒に食べない人の増加を懸念していました。これは、家で自炊をしなくなり、農産物・青果物などが売れないことを意味します。そこで、子どもたちに農業体験や農家との交流を経験させてあげること、農業・食に対する理解が深まります。それは、安心・安全な農産物を食べることにつながり、市場が安定して循環するのではないのでしょうか。さらに、農業活動自体が教育の場でもあります。コミュニケーションをとる場になります。急がずマイペースでいいことや、土や水に触れることも教育には大変良いという報告も出てきました。

自分の地域の農林水産業を見つめ直すことが重要だという話もありました。足元の宝を忘れずに磨き続けることも大事なのです。語り手の方々は、農林水産の仕事とは、暗いイメージではなく、格好良いものだと思いを張っていました。人が生きていくための食べ物を生産しながら、みんなが住んでいる日本という国、国土といったものを守っている仕事だと考え、プライドを持っているということが伝わってきました。

今回のトークサロンではたくさんの方々に話をしてもらい、そこで新たな発見、つながりができました。また、当センターが第一次産業の振興を通して地域活性化を促進していくことの大切さを認識できたことは、とても意義深いものでした。これからも第一次産業に目を向けた様々な調査・研究を行っていききたいと考えています。そのためにも、もっと第一次産業の方々のつながりを深めたいと思います。

